

味わい濃厚な春みかん！「カラ」・「南津海」



1. 果実の出荷時期と特長（カラ・南津海共通）

出荷時期	4月中旬から5月下旬まで
特長	大きさや形は温州みかんに似ていますが、寒い冬の間に養分がしっかりと蓄えられ、味わいは濃厚です。
備考	「カラ」は「カラマンダリン」と称されることがあります。「カラ」と「南津海」は外観と味にほとんど違いはありません。「カラ」と「南津海」の合計で見ると、愛媛県は日本一の産地です（平成20年産）。

2. 果実の食べやすさ（カラ・南津海共通）

果皮	①：手で簡単にむけます。 ②：手でむけますが、ややむきにくいこともあります。 ③：手でむくのが大変です。ナイフなどをご利用下さい。
袋	①：薄く、食べてもほとんど気になりません。 ②：やや薄く、袋ごと食べることができます。 ③：厚く、口に残ります。袋をむいてお召し上がり下さい。
種	①：ありません（まれに少量あることもあります）。 ②：あります。

3. 来歴

(1) 「カラ」は、1915年に米国カリフォルニア大学のフロスト博士が育成した、温州みかん（♀）と米国生まれのミカン類「King」（♂）の交雑品種です。日本には1955年に伝来しました。

3世代系譜図（■は父親（♂）、■は母親（♀）、英語表記は外国産）



(2) 「南津海」は、1978年に山口県の山本弘三氏が交配した「カラ」（♀）と「吉浦ポンカン」（♂）の珠心胚実生から生まれました。

3世代系譜図（■は父親（♂）、■は母親（♀）、英語表記は外国産）

